

「燕三条 工場の祭典」

<https://kouba-fes.jp>

デザインイベント「Designers' Saturday 2018」出展

2018年11月2日（金）～11月4日（日）スイス ランゲントールにて開催



Photo: 「燕三条 工場の祭典」実行委員会

2018年11月2日（金）～11月4日（日）まで、スイスの都市、ランゲントールで2年に1度開催されるデザインイベント「Designers' Saturday」に、「燕三条 工場の祭典」が参加いたします。ディレクターはJan Geipel（ヤン・ガイペル）がつとめ、今回、初の試みとして、ゲストカントリーとして日本にスポットをあてました。日本からは、「燕三条 工場の祭典」のほかに、テラダモケイ、石巻工房、内田デザイン研究所をはじめ、数社、数団体が出展します。

「燕三条 工場の祭典」に関する読者お問い合わせ先

「燕三条 工場の祭典」 実行委員会 事務局

公益財団法人燕三条地場産業振興センター 産業振興部燕三条ブランド推進課 ADDRESS. 新潟県三条市須頃1-17 / TEL. 0256-35-7811

「燕三条 工場の祭典」に関する掲載・取材に関するお問い合わせ先

燕三条 工場の祭典 PR 事務局/ HOW INC. TEL. 03-5414-6405 / FAX. 03-5414-6406 / EMAIL. pressrelease@how-pr.co.jp

Designers' Saturday

開催日程 2018年11月2日(金)～11月4日(日)

開催場所 スイス ランゲントール7ヶ所にわたる会場にて展開

その他詳細は、Designers' Saturdayのウェブサイトよりご確認ください。 <https://www.designerssaturday.ch/en/>

「燕三条 工場の祭典」からの出展工場（14社、順不同）

- | | | | |
|-----------|------------|----------|-----------|
| ・火造りのうちやま | ・スノーピーク | ・玉川堂 | ・庖丁工房タダフサ |
| ・三条製作所 | ・マルト長谷川工作室 | ・大泉物産 | ・日本洋食器 |
| ・MGNET | ・マルナオ | ・きせる屋のぼる | ・日野浦刃物工房 |
| ・水野製作所 | ・セブン・セブン | | |

「燕三条 工場の祭典」 <http://kouba-fes.jp>

2013年にスタートした金属加工の産地、新潟県燕三条地域とその周辺地域の工場が一斉に工場を開放し、ものづくりの現場を見学・体験できるイベント。日本を代表する産地で多種多様な製品を産み出しているKOUBA(工場)や、米どころとしても有名なこの地で農業に取り組むKOUBA(耕場)。そんな普段は閉じられている場所を訪れ、職人たちの手仕事を間近に見て、彼らと対話し、ワークショップに参加することもできます。またKOUBA(購場)では、この地で作られた産品を手にすることができます。2018年は、109拠点のKOUBAを開放しました。

燕三条について

燕三条地域（三条市・燕市）は新潟県のほぼ中央、信濃川沿いに位置する、面積約540km²、人口約18万人規模の地域です。山々から雪解け水が信濃川に流れ込み、肥沃な大地を形成し、米をはじめ、野菜、果樹など上質な農作物が作られる農業地域であり、また、日本で一番社長が多い街とも呼ばれ、家族経営や数人程度の小規模な企業が、刃物や金属洋食器などの金属製品を中心に、世界に誇る多種多様な製品をつくり出しています。

両市の「ものづくり」の歴史と伝統をひも解くと、江戸時代の和釘づくりが転機であるといわれています。三条では江戸時代に大規模な新田開発が行われたことから、それに伴い農具を中心とした刃物作りが発展していく一方で、江戸から膨大な和釘の需要を求められたことから、和釘製造が盛んになりました。明治時代になると、和釘鍛冶から大工道具や庖丁などの刃物鍛冶への転換が進み、これらの製品は信濃川の河川を利用した流通の発達により、金物商人を通じて全国へと届けられました。越後平野の中心地で河川の合流地でもあったことから、街道の宿駅であり、河港として船便に恵まれていたため、都市への輸送だけでなく、物資の集散地としても商業が発達し、広く鍛冶製品の品質が知れ渡りました。熱した鉄を繰り返して打ち叩いて鍛え上げ研ぎ澄ます技術から生み出される道具は、何年、何十年と使い続けられ、研ぎ直しのために鍛冶職人の手に戻ってくることも多くあります。

一方、燕では、江戸時代に鋳起銅器の製法が伝えられたことなどから、和釘作りから銅器など別の金属加工業へ転換していきました。職人が一枚の銅板を叩き上げ生み出す急須や花器は、使う程に光沢を増すと言われていました。また、長年培ってきた金工技術の評判により、大正時代に入ると洋食器の生産に金工技術が活かされました。その後も鍋やケトルといった金属ハウスウェアも手掛け、金属加工一大産地へと発展してきました。工業化が進んだ現代でも鍛冶や鋳起などを始めとした伝統的な技法を守り続けている職人も多数存在しています。さらに、職人たちはただ伝統を守っているだけではなく、科学的な検証・知見により、伝統技術を見直し、時代の流れに合わせ、現代の暮らしを豊かにするため、その産品を日々更新し続けています。

農業と商業が、工業と有機的に結びつきながら、世界有数の高度な技術集積地となった「ものづくりのまち 燕三条」。この地を訪れば、職人たちの類まれなる技と心に出会うことができます。



「燕三条 工場の祭典」運営チーム

主催・運営. 「燕三条 工場の祭典」 実行委員会

イベント全体監修. method

アートディレクション&デザイン. SPREAD

撮影. 神宮巨樹、古平和弘

プロジェクション. 岸本智也

プレス. HOW INC.